

アデノウイルスレファレン
スセンター
会議
<概要>

国立感染症研究所
感染症危機管理研究センター
アデノウイルスレファレンスセンター
世話人 花岡希

地区代表

(敬称略)

<北海道・東北・新潟地区>

青森県環境保健センター 小川 裕貴

新潟県保健環境科学研究所 渡部 香

<関東・甲・信・静地区>

東京都健康安全研究センター 長谷川 道弥

<東海・北陸地区>

福井県衛生環境研究センター 高橋 美帆

<近畿地区>

大阪健康安全基盤研究所 廣井 聡

<中国・四国地区>

広島市衛生研究所 藤井 慶樹 (代理出席 山木戸 聡)

<九州・沖縄地区>

熊本県保健環境科学研究所 八尋 俊輔

会議概要

<実施日>

2022年12月26日 14時～16時まで Zoom会議。

<参加者>

地区代表（議決権有）、国立感染症研究所関係者、地方衛生研究所等関係者（自由参加）。

<参加者数概要>

60を超える自治体から少なくとも80名以上が参加した。

<主要課題と会議概要>

- ・小児肝炎対応から得られた課題のまとめ：2022年初頭から欧米で発生した小児急性肝炎症例の集積にアデノウイルスF種の関与が示唆され、日本でも2022年4月～5月にかけて積極的な小児急性肝炎症例のアデノウイルス等のスクリーニング検査が各自治体に求められた（<https://www.mhlw.go.jp/content/000934970.pdf>）。アデノウイルスレファレンスセンターを中心に、緊急のマニュアルアップデート（下痢症アデノ）と、地区内検査体制の確認や整備、陽性コントロールの配布などを行った。現在も対応は継続しており、これまでの対応や今後の課題も含めて、検討を実施した。
- ・咽頭結膜熱・流行性角結膜炎病原体検査マニュアル第4版採用の決定：新型コロナウイルス感染症の影響等で、ウイルス病原体検査の目的が単純な検出の有無だけではなく、遺伝学的背景の解析が同時に求められている。アデノウイルスも遺伝型での型別判別が重要となっているが、簡便かつ安価な完全長ゲノム解析法はまだ確立されていない。このような現状において、継続的なサーベイランスの実施に支障をきたさないように、NESID登録のために必要な型別情報の取得に関して、段階的かつ選択的に遺伝学的解析が可能なようにマニュアルを変更し、改定を行い、採用が決定された。

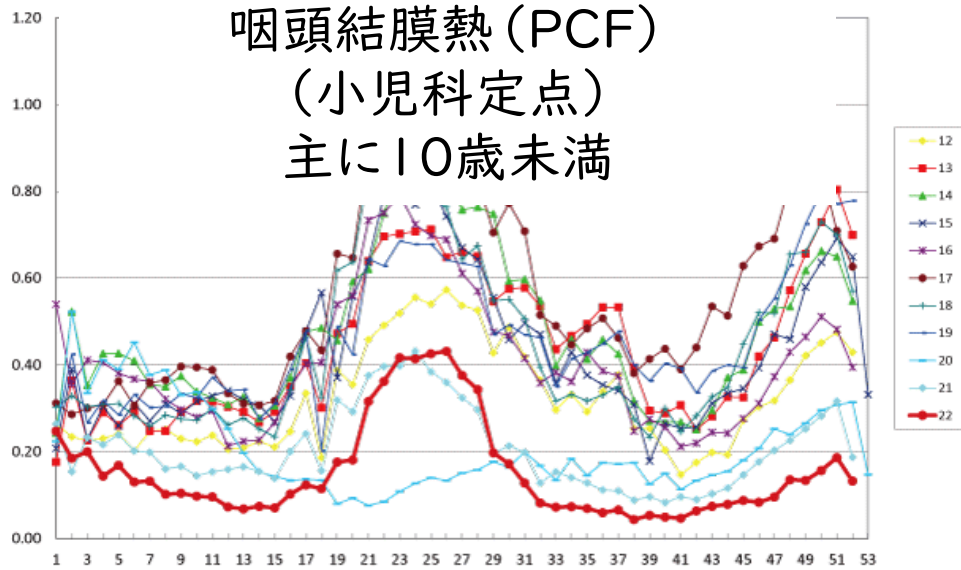
検討課題詳細（議事抜粋）

- 小児急性肝炎対応に関する疫学的まとめ報告（国立感染症研究所 実地疫学センター FETP 大竹正悟先生）
- アデノウイルス病原体探索の行政的課題と確認事項
- （アデノ）（ウイルス）の病原体探索に関連する連絡網の把握と共有
- 小児肝炎対応における各自治体での実態と調査結果の共有
- 咽頭結膜熱・流行性角結膜炎病原体診断マニュアルの追加、改変、改定に関して。（議決）
- アデノウイルスの新型に対するレファレンスセンター対応（NESID対応など）
- Human mastadenovirus D type 8 Trim 株問題
- コロナ渦におけるアデノウイルス感染症発生動向の考察

次年度に向けた主な課題

- 各自治体におけるアデノウイルス検査担当者（連絡先等）の共有と確認、更新
- 新規マニュアルの公表と共有
- 新型アデノウイルス登録方法に関する検討の実施
- 標準株の整備等

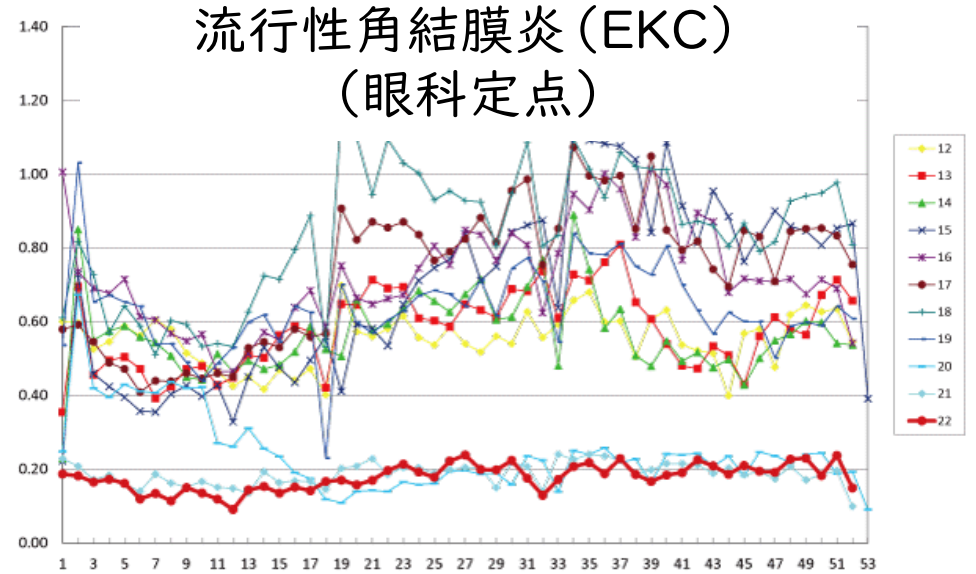
コロナ渦におけるアデノウイルス感染症発生動向の考察 (花岡2022)



IDWRより
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/10/2096-weeklygraph/1645-02pcf.html>

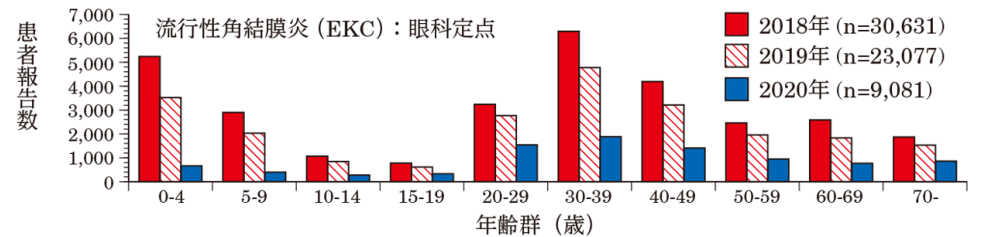
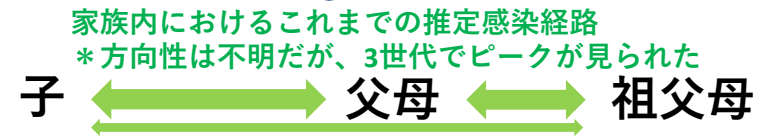
コロナ渦における行動制限解除の影響が大きく出ている(?)
20年での大幅減少から
21年、22年で大幅上昇

PCFでの小児感染状況の回復が、
EKCでは見られないことから、EKCは親世代
から子供世代への感染の方向性が示唆(?)



IDWRより、<https://www.niid.go.jp/niid/ja/10/2096-weeklygraph/1656-15ekc.html>

コロナ渦で、20年、21年、22年で大幅減少



(感染症発生動向調査: 2021年1月22日現在報告数)

PCF、EKC感染状況から推測される
家族内における推定感染経路



コロナ渦での感染症発生動向から感染症の感染環の推測が可能